

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩、ウォーキング、外食、地域の行事参加の中で戸外に出て身を動かすことができ、外部の方との触れ合い、日常生活の中で入居者同士の会話等でお互いさまの気持ちが育まれている場面があります。	「戸外に出て身体を動かす」という理念の実践として積極的に地域との触れあいをしています。日常の散歩、ウォーキングのほか松戸市が呼びかける「プラチナカフェ」に利用者が参加し手伝っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリーンデー・防災訓練の参加や毎日のウォーキングや散歩で近隣、公園内で挨拶や声掛けをしています。(馴染みの方に多く声を掛けていただいています)	クリーンデーに参加するほか、近くの公園で開かれる町会主催の防災訓練に利用者も参加しています。日常の散歩は近くの公園等に出かけますが、多くの利用者が行かれるように人数、時間を分けて実行しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を施設内で行い、近隣の方にお知らせしたり参加していただいたりしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの報告、議題を決めて意見交換またはアドバイスも受けられています。(ご家族や相談員さんや他施設職員さんからのご意見も役立っています)	自治会、いきいき安心センター、家族代表等が出席し年6回開いています。事業所からの報告のほか、家族からの意見も頂いています。イチゴ狩りは傷んだイチゴを食べてしまうことから消極意見があり、参考にしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築いて丁寧な説明を受けられるようにしたいです。	地域の医師、民生委員等が出席する地域ケア会議に出席し情報交換をしています。2か月毎に相談員、民生委員が集う協議会に出て地域在住の介護者不在で問題のある方の情報交換や対策を検討しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を把握し実行しています。施錠は、どこからでも出ようとされる方がいるので安全確保のために玄関施錠・リビング窓に簡易的な鍵をつけています。	職員は、拘束防止マニュアルその他を参考に、拘束ゼロに向けた勉強を常にしています。玄関等に施錠をしていますが、拘束のためでなく、過去の経験も踏まえ「利用者自身の安全のため」にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロへの手引きや松戸市虐待防止マニュアルを利用して勉強しています。施設内研修として入居者・職員の立場になり実際のケアをどう感じるのかを実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は使用しているも、職員すべてが制度のことを熟知はしていません。権利擁護について講習に参加し、資料を参考にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、理解・納得をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートを活かして改善したり、利用者から相談員さんへ、そして施設へ意見が届くこともあります。訪問されないご家族へは時々電話をして意見をいただいております。	家族が訪問した際意見を聞くようにしています。内容は主に日常のケアに関するもので「家族ノート」にすべて記載して職員が見るようにしています。来所しない家族には電話で連絡をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週4日のミーティングで職員の意見や提案を聞き気づきや改善点を話し合っています。外出の計画やイベント等も意見を出し合っています。	職員ミーティングは週4日以上開かれ、その日の利用者の状態を始め有らゆるテーマについて報告、検討される重要な会議で結果は「会議のノート」に記録します。外出やイベントの企画もこの会議で話します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほとんど把握できています。ご本人の長所や得意としていることを十分に発揮できるように支援しています。研修等の参加促進、労働時間、勤務日も殆ど希望が通っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加、内部研修とも随時行っています。OJTも行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の運営推進会議に出席したりお祭りに参加したり、他施設に当施設の運営推進会議に出席していただき意見交換したりしています。G・H協議会で意見交換したり勉強会にも参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最重要と考え行っています。周辺症状が減っていくのを実感できます。個別に話を十分聴くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を聞いて改善に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をご家族、ご本人から十分得て、安全で安楽な生活が得られることを最優先に行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対等の関係を築けるように努めています。すべてのことを否定しないように努めたことで、支え合う関係を実感できました。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られるご家族とはご本人の日常生活をまめに伝えられ介護に協調してもらえます。家族の絆を一番感じられる場面ですので病棟の付き添いは極力ご家族にお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族以外に友人・知人の訪問もあり随時心良く受け入れています。一緒にお墓参りに行かれる方もおり、施設イベントにも参加していただいています。	最近では利用者がかつて働いていた頃の同僚が訪ねて来てくれた例があります。また、彼岸参りに家族と共に知人も同道して行った例もあります。夏祭り、イチゴ狩り等のイベントにも来て頂いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩の組み合わせや全員で参加できるレクリエーション等を通じて関わり合いを持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例がありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ここでの生活からどう楽しみを見いだせるか、ご本人の気持ちを傾聴し一緒に考え一人一人とよく話し合っています。	日によって興奮する、職員に手足を出す等の抵抗をする方がいます。そんな時は手を握る等のスキンシップをしたり、部屋で話をし、本人の意向を聞くなどして気持ちが和らぐまで寄り添う支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めています。 日々の一人ひとりの観察がとても大事だと考えています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の訪問時に話し合い、また主治医の助言を得、ミーティングで検討しそれぞれの意見を参考にして作成し、ご家族に説明し同意を得ています。	主治医の意見を参考に、ご家族の意見などを訪問時に職員と話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成しています。介護計画はご家族にも同意を得て、実践しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、すべての職員が目を通しており、気付いた点をミーティングで話し合い、介護計画にも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化に合わせて、対応しています。(排痰の困難な方にはタッピング、下肢の浮腫にはマッサージ、四肢の委縮には伸展・屈曲運動を施行)衣服・日用品などの必要な物の買い物のお手伝いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人でホームを出てしまった時など知らせていただいた時もありました。散歩は緑豊かな広場に毎日行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を続行希望されている方もいます。主治医との信頼関係が得られており、安心して受診されています。	かかりつけ医の受診を希望する利用者は家族が連れて行きます。その際には利用者の日々の健康状態を家族からかかりつけ医に伝えてもらっています。入居後数ヶ月で殆どの入居者は事業所提携の内科を月1度、歯科を週1度の訪問医による診察を受けるようになっていきます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察が十分できており、即報告、即対応しており利用者はさんは適切な支援を受けられていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	二つの協力病院とも、認知症の方を十分理解してもらっており、早期治療、退院に向けて協力的です。各人の特徴も伝えてあり、治療方針にも活かしてもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後早い段階でご本人、ご家族と話し合っています。看取りは可能ですが死亡確認が遅れることもある、ということもお伝えします。	契約時に「見取りに関する指針」を作成し家族に説明し同意をとっています。また延命処置方法のチェックシートを作成し一項目ずつ説明し利用者、家族の意思、意向を確認しています。看取りに関しては職員の精神的な事項などを含めて内部研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術、誤嚥対処法、止血法、生命徴候のとり方等定期的に訓練しており、職員の70%位は応急処置ができます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内避難訓練、消防署指導の避難訓練、町会の避難訓練に入居者さんと職員で参加しています。火災時、地震時の避難方法を訓練しています。	年1回消防署の指導を受けながら消防訓練を行っています。また施設独自の避難訓練も行っています。町会の避難訓練に、入居者と職員が参加し地域の人と協力関係を築き上げています。	地域との協力体制について、地域の高齢化なども考慮して、実際にどのような協力が得られるか運営推進会議に図って検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉は使わないようにしています。人生の先輩として、敬う気持ちは常にもっています。友達言葉は禁止しています。	認知症の勉強会を行い、「否定的な言葉は使わない。利用者を受容し、共感する」を職員全員が共有しています。リビングの前のトイレを使う時は、日常開けてあるリビングのドアを閉め、トイレに行ったことがわからないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に気をつけて声掛けして、ご本人の思いを引き出すようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように支援しています。入居前の不規則な生活の方も規則正しい生活を取り戻せるようにしています。その日の過ごし方について、ご本人からの希望があれば希望に添うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は、その人らしくきれいにされており、さりげなく合う服を進めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんの各々知的、身体的状態により職員と一緒に食事の準備をしてもらうこともあります。食材の皮むき・餃子包みをしていただけます。	食事の献立は利用者と決め食事の準備が出来た人は参加してもらい、食事を楽しむ支援をしています。食べた後の食器のかたづけを利用者と職員が一緒に行っています。	食事の準備や片付けができない人にも、献立を書いてもらうとか、発表してもらう等して全員が食事の準備に関わってもらい、食事を楽しむ支援に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほとんどの職員が、食材や量のカロリーをおおよそ把握しています。水分も十分摂っています。お茶・スープをあまり飲まれない方には、好きなジュースをお出ししています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態や能力に応じて、声掛け・誘導・見守り・一部介助・全介助にて毎食後の歯磨きをしています。介助の拒否のある方には歯科衛生士さんにケアしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間毎にトイレ誘導し、排尿パターンを把握します。(チェック表に記入) 声掛けまたは誘導することにより、リハビリパンツの使用回数が減る方もいます。また、リハビリパンツが外れた方もいます。	排泄の自立は事業所の最重点に位置付けています。排泄パターンを把握し排泄チェック表を用いて2時間おきにトイレ誘導しています。昼は布パンツで過ごす方も増えています。リハビリパンツの使用回数が減っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米2食と野菜を多く取り入れ水分も十分摂っています。ウォーキングをほとんど毎日行っていますが便秘の方が多。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回で、曜日や時間は決まっていますが、入浴の順番を気にされる方の要望には応えています。	入浴の回数や曜日、時間帯を決めていますが、利用者が希望する時間帯があれば意向に沿う様にしています。個浴で落ち着いて入浴できる支援をし、利用者の気持ちを考慮しなるべく同性介助を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時、希望時、自ら寝に行かれる方もいますが、ほとんどの方は昼寝はされていません。ラジオを聴きながら眠られる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の主作用はほとんど把握できています。しかし副作用については十分な把握はできていないのでミーティングで時々勉強しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理(野菜の皮むき・餃子包み)、裾上げをやっていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は毎日のウォーキングや散歩をしています。ご家族が外食や墓参りに連れて行って下さったりもします。	日常的に1時間位散歩に行き、その後はリハビリを兼ねて、ラジオ体操を行い、楽器をもって歌を歌いレクリエーションを楽しんでいます。21世紀の森の中のカフェに行く、近くのレストランで食事をする等の計画を立て、利用者が生き生きと楽しい毎日を過ごせるように工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今では数名しか所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があったり、贈り物のお礼を言う時に電話しています。手紙は以前のように書ける方が少なくなりましたが、しっかりと書ける方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者とスタッフで制作した物や花を飾り明るい雰囲気にしており、季節の植物を利用しカレンダーを作る等季節感も取り入れています。	玄関に利用者が生けた立派な生花が飾られ季節が感じられます。、利用者、家族、来訪者がホット出来る玄関になっています。共用部分は整理整頓ができ安全な導線の確保が出来ています。また利用者が作成した飾り物が壁に貼ってあり、利用者の作成意欲の向上に役立っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等に移動してお話されたり、雑誌などを一緒に見て楽しんでいます。気の合う方の席に行き昔話などをされ楽しそうに過ごされています。 居室を訪問したり、されたりしてらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物がある方は、ご家族の方が飾って下さり、使い慣れた物を入れていらっしゃる方もおります。	入居時に好みの物、使い慣れた物を待ってきただけのように声掛けしています。持ってきたものは居室に置き、利用者、家族と一緒に居心地良い居室であるように工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	矢印などで誘導線を表示したり、手摺やエレベーターの使用で自立に役立っているようです。		